

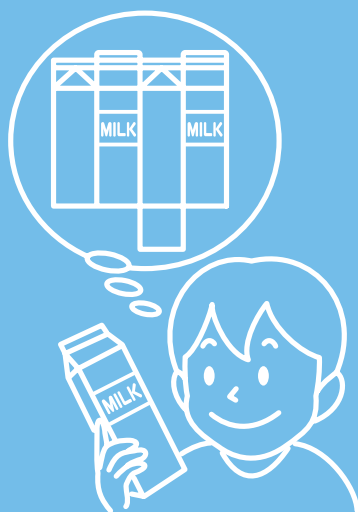
自分の行動が環境にどのような影響を与えているか考えたことがありますか。日々の快適な暮らしの中で、私たちは大量のエネルギー・水・その他の資源を消費しています。また、私たちが日々利用している商品やサービスの中には、それ自体が環境に悪影響を及ぼすものや、使用法や廃棄方法によっては環境への負荷が高まるものがあります。

将来の地球の環境を守るためには、限りある資源を大切に利用し、できるだけ環境への負荷の少ない商品やサービスを優先的に選ぶことが大切です。

環境への負荷の少ないものを購入することをグリーン購入と言い、普段の買物でグリーン購入を実践する人をグリーンコンシューマーと呼びます。私たち一人ひとりがグリーン購入を心がけることで企業に環境負荷の少ない商品開発を促すことができます。

IV 環境

4th Lesson Environment



1 3R—リデュース、リユース、リサイクル

「3R」(スリーアール)※とは①出来るだけごみは出さない(リデュース)、②ごみにする前に再使用を試みる(リユース)、③どうしてもごみに出すものは原材料として再使用する(マテリアル・リサイクル) また、原材料としても使用できない場合はその熱エネルギーを使用する(サーマル・リサイクル)。この3つの英語表記の頭文字がRであることから来ています。

最終的に3Rでも処分できない場合はごみとして適正に処分しますが、1番大切なことはもちろん「ごみを出さないこと(リデュース)」です。

資源の消費を抑えることは、資源やエネルギーの損失を減らし環境への負荷をできる限り減らすことにつながります。この資源の中には水も含まれます。人類が利用できる水は、地球全体の水のわずか0.01%と大変貴重な資源です。次世代のことも考え、地球規模で資源の消費をリデュースするよう心がけましょう。

※3R: 排出抑制=リデュース (Reduce)、
再使用=リユース (Reuse)、
再生利用=リサイクル (Recycle)



2 環境への影響を少なくする取組み

製品の一生には製造→輸送→販売→使用→廃棄→再利用という流れがあります。そしてこの流れのすべての段階で、資源を使用したり、排出物を出すことにより、地球や生態系の環境に影響を与えています。

この各段階で環境への影響を客観的に測ることで、製品やその製造過程をより影響の少ないものに変革しようとする手法が「ライフサイクルアセスメント」です。これにより、企業は排出物の再利用の可能性を見つけ、廃棄の少ない製品を開発することも可能になります。

私たちはそのような商品を選択したり、使用済みの製品の回収に協力したり、きちんと分別してごみを廃棄したりすることで、環境への影響を減らすことに協力できます。例えば、温室効果ガスのひとつの原因である使用済みのフロンガスの回収に協力し、大気中に排出させることなく適正に処理することは地球温暖化防止につながります。

